

令和4年度 園評価に関する報告書

1 園の目標

雑草のようにたくましい子、思いやりのある優しい子、ルールを守れる子に育てる

1. 基本的な生活習慣の自立に向けて“やりたい”という気持ちを大切にしながら、自立心を育てる。
2. 異年齢児グループを作り、家庭的な雰囲気の中で子ども同士が自由に遊ぶことにより、子どもが子どもの中で育ち合う環境を作る。
3. 豊かな言葉のある環境に留意し、正しい言葉を身につけ表現力の基礎を培い、情緒の安定を図る。
4. 生活や遊びの中で、自分の意思や考えが表現出来るようにし、相手の人権を尊重し、思いやりのある豊かな心を育てる。
5. 子どもの驚きや不思議に思うことを大切に受け止め、探究心・思考力・認識力を養い、目標に向かって最後までやりぬく粘り強さを身につけ“生きる力” “人を思う優しさ”を育てる。

2 達成に向けた具体的な取り組みの計画

1. 一人ひとりの子どもの健康状態や発育・発達・家庭状況を把握し、信頼関係の中で情緒を安定させ、子どもの「思い」を満たせるような教育・保育を展開する。
2. 異年齢の交流をもつことで、身近なモデリングや憧れの存在となり、頼ったり頼られたりすることで、優しさや思いやりの気持ち、自尊心を育てる。
3. 言語の力は、人間形成の基本能力として重視し、絵本を見る・聞く・読むことを通して、ことば・もじの経験を豊富に与え、理解力と表現力の発達を促す。
4. 友だち・先生・地域の方たちと関わり、触れ合う中で、優しさ・思いやり・約束・ルールを守れる協調性・社会性を育む。
5. 様々な活動を通し、試行錯誤しながら挑戦する中で、知的好奇心を高め達成感や充実感を味わい、創造力の豊かな問題解決意欲の高い子どもを育てる。

3 評価と課題

1. 一人ひとりの子どもの保育を行う上で必要な情報については、職員間で情報の共有を行い、共通認識がもてるようにした。また、子どもの声に耳を傾け、目線を合わせて丁寧に向き合うことで、情緒の安定や主体性、自己肯定感といった心の成長や、その先にある学びにつながるように努めた。今年度も子どもと丁寧に向き合う中で、見通しを立てた保育・教育を目指していく。
2. 今年度も昨年度に引き続き、新型コロナウイルスの影響によりクラス単位での活動が主であった為、異年齢の交流はあまりできなかったが、戸外遊びを通じ、お互いの姿に刺激を受け、思いやりの気持ちや憧れの気持ちが大きく育っていると感じる。今年度も状況を見ながら少しずつ異年齢での交流を図る。
3. 月間絵本や保育室、また絵本コーナーにある年齢にあった身近な絵本に親しむ中で、簡単な言葉を繰り返したり、想像する楽しさをあじわい、また文字への興味へとつなげられた。今年度も異年齢での読み聞かせを進めて行く。
4. 今年度も昨年度同様、新型コロナウイルスの影響で地域の方たちとの関わりはなかなかもつ機会がなかったが、友だちや保育教諭との関わりの中で思いやりの心や協調性、社会性における望ましい習慣や態度が育っていると感じる。また感染症予防対策につながる新たな生活習慣にも順応できるようになってきている。
5. 好きなことも苦手なことも含め、様々な活動を安心できる存在である友だちや保育教諭と共に経験する中で、意欲的に挑戦したり、自分たちで考える力や主体性が育ってきているように思う。今年度も子どもの現在のありのままを受け止め、心の安定を図りながら“生きる力” “人を思う優しさ”を育てて行く。